

広報



ちば市老連

VOL.12

2000 - 3

社団法人 千葉市老人クラブ連合会 (043) 262-1236

千年にたった一度の今 きらきら 21世紀高齡社会の道づくり



- 市老連会長 新生清蔵 土台は単位クラブ／会員主役の市老連に
- 教養部 心豊かな21世紀・私の主張
- 論 壇
- 区・地区のたより
- 会員文芸
- 事務局だより

土台は単位クラブ

会員主役の市老連に

（社）千葉市老連会長 新生 清 蔵

一九九九年は、なじみ深い年でした。国連のテーマとして、国際高齢者年でもあったかもしれない。

明けて二千年、世界人類で初めて経験する未知の歴年である。それに備え二千年問題が、もしかしたら起るらしいと安全をもって騒いでいるかもしれない。Y2K問題、うるう年二・二九問題等である。けれど大きな問題もなく、西暦二千年は流れている。結構なことである。このようなスタートが切られた二千年であり、新千年紀（ミレニアム）に動き初めた。その記念すべき新千年紀に市老連は「ちば市老連」第十二号を発刊する事になりました。年二回の発行であります、会員皆様より原稿を提出して戴き「広報部」の部員皆様の編集等担当者の努力が誌面いっぱいになり、その時代の社会層が現われています。一号より綴り保管し

読んで見ますと、市老連の現況や発刊した時代が浮び一層なつかしさがあります。是非お手許に届きましたら綴って見て下さい。

「ちば市老連」を通し御挨拶出来る事は大変すてきな友情です。市老連も遂次運営面に新風を取入れ、区老連を主役に切替えていく事が必要であろうとの考え方が多く、区老連の中の単位クラブであり、地域で生れた単位クラブで、地域の皆様に愛されるクラブに育てて行きたいと、リーダーの皆様にお願ひしています。行事参加は近くの皆様によって盛り上げていただきたい。そこに老連のよさ、一人一人の会員皆様に御理解と御協力が得られると思います。土台である単位クラブなくして市老連は発展しません。社会参加し、楽しさを十分味って戴いてこそ、生きがいづくり、健康づくりがあり、四月より

発足する介護保険制度の介護支援でもあります。自立する高齢者の健康を永く維持するために、市老連として、各専門部の事業を介護支援に結びつけて参りたいと考えています。健康で会員皆様が好む事業に参加して戴き、楽しくして終日を送って行く事は大切であります。健康であれば毎日が楽しく笑顔となり、一層の励みが日常に満ちて参ります。

さきほど申し上げたように介護保険制度がスタートします。弱者を国民全員で支えて参りましょうとの保険制度であります、これも初めての制度で、次々と問題点も出ています。関係者は好スタートを切りたいと唯今努力中と聞いています。市老連として「自立」された認定者とはもとより、会員皆様が永く健康維持で行く事を目的とし、出来る限り介護支援事業に取り組んで参りたいと考えています。会員皆様の御支援をお願いします。

老連は気兼ねなく楽しく仲間達によって組織を大切にして行く事が望みであります。会員一人一人が主役となって、市老連を育ててほしい。皆様の努力は必ず大きく実を結ぶことは遠くはありません。

「ちば市老連」第十二号発刊にあたりご挨拶とします。

平成11年度指導者研修会

心豊かな21世紀・私の主張

平成十一年度指導者研修会は、十二月九日文化センターにおいて、四五〇名の指導者が参加して開催した。テーマは「心豊かな21世紀・私の主張」とし、各地区代表五名による意見発表を行い、多くの示唆を与えた。

発表者

中央区 天羽 喜公さん

「21世紀への心豊かな私の主張」

花見川区 長谷川文吉さん

「21世紀への心構え」

稲毛区 川島 吾助さん

「広域社会福祉活動」

若葉区 岸岡 泰則さん

「21世紀への展望―リーダーに期待されるもの―」

緑区 沼田 俊夫さん

「余生の過ごし方」

発表の概要

中央区の天羽喜公さんは、私たちのクラブは、日頃から公会堂の無料使用・ランドゴルフ器具の町会からの寄贈・コピーの無料

使用等、町内から多大の恩恵を受けているため、その一つのお返しとして、地域に密着した協力や共同作業に力を入れており、また町内の諸行事にも積極的に協力している。今後の課題としては、防災問題、特に昼間、若い人達が不在の時の防災活動を老人が主力となつて進めていくことを考えている。

花見川区の長谷川文吉さんは、

我々の区には花見川という大きな川があるが、清らかな水が流れて、立派な区にならなければならないのに、未だどぶ川であることに驚いている。清らかな水が流れて始めて本当の文化が生まれると思う。我々は、二十一世紀に向かって、「春の小川はさらさら流れ…」ということを期待し、豊かな郷土づくりに努めたい。

稲毛区の川島吾助さんは、平成七年から千葉市を始め県下の老人施設を訪問し、民謡や舞踊の演芸慰問を続けている。この組織と運営に関しては、責任者の苦労が大きい。しかし、今後とも共通の目

的を持った人々が、協調体制で運営を図って行きたい。

若葉区の岸岡泰則さんは、私達は、戦中戦後の激動の時代を生きてきた。そして、日本は経済大国になったが、最近、見失われたものとして「心の問題」が指摘されている。私達は、大切な心を次の世代に伝えていきたいと思うし、後の続く者を育成することも我々がやらねばならない任務であると思う。

緑区の沼田俊夫さんは、人間関係づくりについて、会話をするときには「キャッチボール」のことを考えて行うとうまく行くと思う。相手が受けやすいボールを投げてやるように、「許す心」・「補う心」・「学ぶ心」が大切である。

本年度、初めて実施した「意見発表」は、これまでの実践に基づく建設的な主張であり、出席した人々に多くの示唆を与え、今後の市老連運営にも役立つもので、好評のうちに終了した。

(教養部長 深山太一)

新世紀への課題

若葉区老連会長

菊池 力

昨年末はY2K問題で騒がしかったが、一夜明けてみれば虚子のいう「去年今年貫く棒の如きもの」で、一年後の二十一世紀への橋渡しの二十二年に無事突入したわけである。

グローバルな問題では環境問題、人口問題、関連して食糧問題、難病対策、インターネットの拡大普及に伴う電脳社会対策などがあるが、これらに対しては世界の頭脳を集めて現在ただ今も必死で対策が練られている筈である。

問題を日本に限ってみれば、以上のほかに高齢と少子化社会の到来、安全対策、危機管理、膨大な借金政策の始末、労働力の確保、関連して外国人の積極的な受け入れなどが上げられる。こうした激しい流動化現象のなかで、価値観の変化に伴う老人層の生き方も問われるであろうし、従って老人会の在り方も、既往にとらわれていては時

代にフォローできないであろう。

例えば、目前に迫っている「介護保険」に対しては、これを受け身で、つまり受益本能だけで受け止めてはいけないと思う。むしろもっと積極的に、同時代の当事者として自ら政策の展開に関わる決意と行動が必要であろう。方法としてはいろいろあるが、地区連毎に要介護認定前に該当者情報の一元化を図ることが考えられる。これを制度的に組み入れることができれば一番いいわけで、このためには中央（全老連）の政治的な運動が要請されよう。要するに考え方としては、この問題に限らず、同時代の老人に対しては同時代の老人パワーを社会的に極力活用していこう、というのである。一つの提言として申し上げておきたい。

新世紀への道を拓こう

旭町東寿会

鈴木 秀男

退職して十年余、残された

天命への道は、「孤掌鳴らし難し」の通り、左手は趣味、特技、右手は奉仕、ボランティアを、音を響かせ人生を闊歩することを信条としています。

そのこともあって、青少年の補導を永年続けてきました。この体験から、痛切に感じたことは、「新世紀への道を拓く」重要課題は、青少年の人間性の開発ではないかと考えました。利己的行為、モラルの無視、親子の絆等の現実、次代を担う青少年の善導こそ急務ではないでしょうか。「これからの子どもは、たくましくなければ、生きては行けない。しかし、思いやりと真実のやさしさがなければ、生きる価値はない」ということです。

現代っ子が欠如しているのは「自覚」ではないでしょうか。他動的な考えやことなかれ主義では、自覚は育ちません。強制や軌道上を歩ませているは望めません。自分の問題場面を直視し、葛藤の中から自ら決断し、意欲的に実践する姿こそ、自覚につながる

ものでしょう。この自覚をゆさぶる心情が「共感」という大切な、ふれ合いの心だと思っています。

何年か前に警察協助力として、暴走族の仲間A子を家庭訪問、直接面接相談で継続指導をした際に、あらゆる悪業を重ね、つっぱっていた、あのA子が、ある日話し合いの中で「くやしかったらう／＼」という投げかけに涙の笑顔で共感してくれ、立ち直りのキッカケになったことを、今でも思い出します。

私も高齢者も、家庭、社会の子ども達への賞揚と認知叱責と激励の誠意あるプロデュースは、成果大です。円熟よく人を導きます。

老人クラブ（高齢者）の元氣

長沼原台千寿会

福田 正典

市老連主催による各区代表の「心豊かな21世紀」との標題で各講師の発言は有意義であり感銘深い話でした。共

通のベースは健康でなければならぬと言われました。健康でなければならぬことは世界保健機構WHOで言っている様に、健康な身体は健全な精神に宿ると碩学の教のとおりにこれは真理です。

当団地の汚水処理施設の、維持管理を六年ぐらい二人の会員がボランティアでやっています。これが破損停止でもすれば生活さえおびやかされる状況になるのは必然で、二人は献身的な努力で何事もなく運営されています。長沼原第一、第二公園の清掃もボランティアで永く続けられています。この方々は、ちばさわやかハートふれあい会にサポーターとして活躍し個人の方も何人か登録されています。クラブ活動も自治会と連動してグラウンドゴルフあり、ゲートボールあり。女性は体操に民謡に踊りと元氣です。又、老人施設にボランティアとして二、三人で交替で御世話しています。女性ならではの心配りに施設の方でも大変喜んでおられるようです。又、廃

品回収の際には各家庭の協力で、使用済の食用油を集めて、汚水の水質維持と資源再利用を計るため廃油による手造り石鹼を造って利用しております。千葉大学養護学校で生徒の教育の一環として各地の催しで石鹼を売っております。これも先頭に立つ人がいて毎月当番を決めて石鹼造りをしています。

平成九年に環境整備と安全な街づくりで総務庁長官賞を受賞し表彰の栄に浴しました。毎日楽しく明るく快適な生活が出来る様に頑張つて、シングル高齢者に声をかけ、孤独にならないよう、みんなが心掛けていくところです。

新世紀への 道を拓こう

高洲さざなみ会

渡辺章次郎

今や少子高齢化社会四対一の私共の社会において、社団法人千葉市老連の存在は輝かしく、半面その責務は大きく重いものであることは申すまでもない。

千葉市老人クラブ連合会は現在大きな試練の時にあることは、関係の私共を含めて認められるところである。

市老連会員はここ数年目に見えて減少の傾向にある。五年前に比較すると、クラブ数会員数共に一〇%強の落ち込みである。

原因としては、自然減少によるものと、その運営、施策に対しての不満、批判から来る脱会である。卑近な例として私共高洲地区においても、ここ数年来その存在意義に不満を抱き、市老連、地区連を脱会したケースがある。

これらのクラブは脱会後解散ということではなく、地元においては個々に単位クラブとして活躍しており、その地域においてもそれを認めている。これは高洲地区に限ったことではないと思われる。

現在このような現象に対して思考的対策が積極的に推進していると思えないが、残念である。

年度ごとに会員増強というスローガンを掲げることは容易である。

現高齢者社会における高齢者層の巾は大きい。六十才、八十才、年令差は三十才である私共会員層においても然り、親子で老、ク、会員ということも自然の成り行きと考えられる。

今や千葉市老人クラブ連合会は新しきを追究することではなく、現時点においての会員のあり様を十二分に把握し、以て施策運営面に反映されることが急務である。

新世紀に向ってのリーダーである市老連の役割は大きく、その期待感を裏切ることのないよう道を拓いて行きたいものである。 妄言多謝

新世紀への 道を拓こう

稲穂第一会長

川島 吾助

気になることがあります。平成七年に私のクラブが社会福祉活動として、千葉県下の

老人施設の演芸慰問を始めてから、五年のあいだに多くのクラブが消えています。考えられることは、組織がうまく機能せず、必然的に運営に行きづまり、解散に追い込まれていく、そんなケースが多かったのではないのでしょうか。

組織と運営は、言葉の上では簡単に自主的な運営とか言いますが、戦前、戦中育ちが大半の年配者のみで構成されている、老人クラブなる任意の団体を、今様に形づくることは至難の技です。しかし、そんなことを言っていると、解散と言う怪物が大きな口をあけて、どうぞこちらへと招いているので、その口を塞ぐために、みんなで考え選定したクラブの目標を掲げ、進む道筋を明確にすることです。

共通の目的をもつ、二人以上の人達が協調体制をとる、これが組織で、きめた対象に向って、行動を起こす、これがクラブの運営となります。

前文で老人クラブを今様に形づくることは、至難の技と

書いたが、その理由は、各自の意識の転換にあり、これには時間をかけた、辛抱強い教育的指導が必要で、その任に直接あたれるのは会長で、やるしきやないでしょう。

前任者から引き継いだクラブでも、また新しいクラブでも

新しい老人会像を

古市場老人会

岩崎 榮則

昨年四月に会長になって、この一年近く老人会像というか老人会のあり方について自問自答をくりかえしてきました。老人会の現状（会員数）と高齢者人口増を比較してみますと大きな格差があるといっています。高齢者の多くを会員に迎えて老人会の活性化を図りたいと思うのは、老人会全体の共通した願望ではないでしょうか。

そして、老人会の体質改善と魅力づくりに、豊かな人生経験と知恵袋をもつ集団として各論の具体化が求めらるていると思います。そこに二十

一世紀にむけた老人会像の新しいイメージづくりがあると
思います。

私は、仕事柄、毎年、総務
庁編「高齢社会白書」を参考
にしている訳ですが、平成十
一年版で、「高齢者の社会参
加と生きがいづくり」として、
「高齢者自身が社会における
役割を見だし、生きがいをも
って積極的に参加できるよ
う、各種社会環境の条件整備
に努めることが重要になって
いる。」と強調しています。
これは老人会にとっての活動
の基本だろうと思います。
いま私たちは、これまで経
験したことのない社会変化の
介護保険制度に直面していま
す。お互い学び、情報交換し
あい、支えあうことが要にな
ります。
また日頃感じていることは、
日本ほど「老人」「年寄り」
「高齢者」と定義が不統一で
す。私自身は「高齢者」に定
義を統一すべきだと考えてい
ます。二十一世紀にむけて、
老人会の名称を引継ぐのか、
それとも飛躍にふさわしい会

の名称になるのか一考の余地
があると思います。

健康な社会参加

轟南延寿会

廣居 量一

ゲートボールは高齢者の手
軽なスポーツとしてピーク時
には、三百八十万人に達する
愛好者がいたが十年たった現
在は約三分の一の百四十万人
に落ち込んでいるという。競
争心の過熱が一因という説も
あるがスポーツの多様化も背
景にあるだろう。別の問題で
あるが、桑原和彦さん（全通）
は「戦後復興、経済成長を集
団で担ってきた旧世代と、よ
り自由な感覚指向の新世代へ
の交替」という言葉を使っ
ているが、その言葉はここでも
あてはまるようだ。
ゲートボールのように団体
競技の制約を嫌い、個人プレ
イに目を向けるようになった。格
好の例がグランドゴルフである。
老人クラブへの関心も似た
ような傾向が見られる。戦後、
寄りどころのない老人たちが、

仲間をつくり集会をしたり、
今のように社会参加とか、地
域の美化活動のような集団活
動は、現役の頃の「縛られた
人生」の再現であり、「自由
な人生」を望む意識の変化が、
高齢者層の世代交替と相乗し
た現象と思われる。ひとりの
世界、ひとりの自由も一つの生
き方であろうが、楽しみや生き
がいの集団活動の深さは体験し
て始めて知る生きがいである。
どこのクラブでも歌や踊り
などのお稽古事やグランドゴ
ルフ、旅行などに取り組んで
おり、地区大会や区・市の大
会にも参加している。
どれもこれもみんな生きがい
を確かめ、健康な明日をつ
くろうとしているのです。
一人ではできない集団の楽
しみ、集団の力を見直しして
みましょう。（会報より）

悠友クラブに

励まされて

悠友クラブ

花輪

勇

北大宮台に引越して来て四

年経ちました。

以前住んでいた所は三〇年
経過していましたので、子供
達の成長の過程で小学校・P
TA・運動会・自治会行事等、
諸々の機会に近隣の方達と交
流を積み重ね、永年の間にお
互いの気心も知れ、安心して
暮らしていました。（中略）

六〇歳過ぎの老年者が或る
日突然、この北大宮台に転居
することは、将に学期途中で
転校して来た低学年の生徒の
心境とでも云えそうです

まず地域の人達と
の交流を深めて知り合
い、仲間に入れていた
だくことが大事だと今
更気付いた始末でした。

自治会から敬老の集
いの招待を戴き、同年
代の大勢の人達の老人
パワーに触れ、圧倒さ
れると共に目から鱗が
落ちる想いでした。

悠友クラブにも入会
し、会長さんはじめ役
員の方々の温かいご指
導で、この地域での生
活の方向づけも見えて

来ました。

悠友クラブの活動目標とし
て掲げられる「健康」「友愛」
「奉仕」の三本柱に副った各
サークル同好会の企画が目白
押しで、カレンダーに記しな
いと忘れてしまいそうです。
いろいろな催しに参加して
交流を重ねる毎に、友情も深
まり地域に融けこんでゆくの
が実感され、楽しい日々と生
き甲斐を感じております。

（瓦版／悠友より）

あぶないよ ひとりぼっちにした その火

火災状況

	平成11年	平成12年
発生件数	383件 (1日あたり1.05件)	329件 (1日あたり0.9件)
火災による死者	12名	15名
火災による負傷者	64名	51名

火災原因ワースト3

1位	放火	112件 (疑いを含む)
2位	たばこ	55件
3位	コンロ	40件



演芸大会花盛り

気象統計では二月が一番寒いという。「さのさ」ではないが「寒に咲くのは梅の花」で、クラブ活動も元気な若年寄連は北風ビュービューのなかでグラウンドゴルフに熱心だが、屋内活動が多くなる。

広報部に寄せられた芸能大会、稲毛区老連、穴川地区連、中央区白旗地区のお楽しみ演芸大会などにたくさんさんの会員が集った。

稲毛区老連大会

稲毛区老連の芸能大会は二月十五日穴川コミュニティセンターで開催。二百余人が参加した。歌に踊りに、コーラスや鳴りものとバラエティに富んだ種目に大きな拍手が湧いたが、自分の所属する地区やクラブが出場したときは一段と盛んで、大向うから声が

かかる程であった。(写真は三味線にあわせて歌う民謡と耳を傾ける参加者)

ばち捌きあざやか 穴川地区連大会

穴川地区は同じ二月二十四日、轟公民館でお楽しみ演芸大会を開催した。稲毛区老連の場合と同じく種目も豊富で特に三味線合奏の「津軽じゃんがら節」(写真)には拍手が鳴りやまなかった。

芸ことは日頃の稽古が大切だが、発表の場となる地区や区、市の大会は定着し、生きがいの場つくりになっている。



録し、またゲートボール、グラウンドゴルフも全国健康福祉大会に参加しております。

グラウンドゴルフは、文部省の生涯スポーツ推進事業の一環として創案された新しいスポーツで老若男女、体力、能力などの差はほとんどなし、高齢者のスポーツとして幅広い性格を持ち、全国的に普及定着しております。

積極的な

行事取りくみ

白旗地区老人クラブ連合会は会員六九三名、十四のクラブが活動しており、川崎製鉄の関連施設が多く、リーダー

も元町内会長がおり、町内会よりの補助金も多く、福祉協議会、コミュニティ等とも協力関係をもっております。

九月には、おたのしみ会も三十周年となり南部青少年センターにて芸能発表会を実施。市老連主催の輪投げ大会では白旗地区が十一回の優勝を記

我が国の高齢者は、二十五年には、四人に一人が六十才以上となり、医療の発達と共に人生八十年の時代を迎え、高齢者が社会を支える重要な一員となります。

老人クラブ活動を通じて親睦と生きがいを高揚し、心身の健康増進、老後の生活をより豊かなものとするを目的として進展に寄与したく思っております。

(白旗地区 安野)



お元気ですか

事務局だより

役員一泊研修旅行

(九月三十日～十月一日)

山梨方面へ一四〇名がバス三台で出かけ、研修内容は、ワインの健康法及び山梨美術館でミレーについての講演と絵画鑑賞。石和温泉に泊まり、参加者は一層の親睦を深めた。他に富士山5合目・ミュージアム・ワイン工場を見学し、ぶどう狩りも楽しんだ。



第12回全国健康福祉祭 福井大会 (十月九日～十二日)

千葉市からは一二六名が参

加、そのうち当会参加種目はゲートボール、グラウンドゴルフ、囲碁、将棋及び国際シンポジウムである。

何れも成績は残念な結果となった。

第28回

全国老人クラブ大会

(十月二十六日～二十七日)

長野市で開催され、初日は7会場に分散し研究部会があり、二日目は式典が催され、全老連会長表彰として、当会から団体では桜木町長寿会(会長・西村美登利氏)、個人は小関誠氏(市老連副会長)が受賞された。

第23回輪投げ大会

(十一月一日)

千葉公園体育館で約八〇〇名参加。幕張地区の石井義雄さんが元気良く選手宣誓をし、午前十時個人戦が開始された。午後の団体戦ともに熱戦となり、成績は次のとおり。

〈団体の部〉

優勝

若葉区老連若葉地区

準優勝

中央区老連中央地区

第三位

中央区老連蘇我地区

〈個人の部〉

優勝

小柳 昇・白旗千代子

準優勝

立部信之・相原と志

第三位

椎名 武・池葉勝恵



第20回芸能大会

(十一月一八日)

例年どおり市民会館に於いて開催され、各グループがチームワーク良く日頃の活動の成果を披露した。審査の結果次のチームが閉会式において表彰された。

・市長賞

若葉長寿会

(若葉区老連若葉地区)

・市議会議長賞

すみれコーラス

(花見川区老連花見川地区)

・市社協会会長賞

誉田こすもす会A

(緑区老連誉田地区)

・特別賞

登戸二丁目登寿会

(中央区老連登戸地区)

・努力賞

高洲地区女性部

(美浜区老連高洲地区)

他に敢闘賞・ラッキー賞・さわやか賞・健やか賞・シルバー賞がある。



世紀・私の主張」に沿って発表した。(表紙写真) 内容は別記報告のとおり。

年末慰問

(十二月十三日～十七日)

地域のひとり暮らしや寝たきりの老人の家庭を訪問し、慰問品を届けた。
訪問家庭数―約二千八十戸

ふれあいの店

(十一月十九～二十一日)

セントラルプラザ7階ホールにて開催。千葉市の委託事業であり、老人クラブ会員だけでなく一般の高齢者も参加し、売上率は約六〇％であった。

指導者研修会

(十二月九日)

文化センターに於いて四五〇名が参加、今年は趣きを変えて各区より代表一名がテーマ「心豊かな二十一

第2回女性リーダー研修会

(十二月十六日)

市役所8階正庁で、介護保険制度について市介護保険課補佐龍崎純夫氏に講演していただいた。他に十月開催された全国老人クラブ大会について五名の女性委員が参加報告した。

新年会

(平成十二年一月十八日)

市役所向かいの東天紅で開催、市保健福祉局長や市議会議長他多数の来賓を招き、約

一八〇名参加のもと、盛大に行われ会員相互の懇親を深めた。

今後の予定

第3回 女性リーダー研修会

三月七日(火)

千葉市文化センター

第9回 通常総会

三月二十八日(火)

どんな活動をしているのか

―全老連の実態調査から拾う―
全老連は平成十一年二月に単位クラブ、県市県村連と今回初めて、地区(校区)老連の組織や活動状況を調査をした。対象は大都市圏では東京都、大阪府。大都市近接県は埼玉県、奈良県。地方県では秋田県、富山県、島根県、高知県、鹿児島。

調査は多岐に亘っているが抜粋してみた。

▼単位クラブの活動

調査対象一クラブ平均は十六



ハーモニープラザへ 車椅子を寄贈

十二月一日ハーモニープラザがオープンするにあたり、当市老連では車椅子十四台を寄贈した。

オープンした現在では、正面入口に配置されて来館者が利用し、非常に感謝されている。

▼地区(校区)の活動

市町村老連と単位クラブの中間に位置する「地区(校区)老連の平均クラブ数は一〇クラブで、会員数は平均で六七〇人となっている。活動としては「スポーツ、レクリエーション大会や芸能発表会は九〇%の地区連が実施しているが、地域行事への協力については八〇%強と高く、地域に根ざす活動の実態を表している。

※県市町村連については割愛します。何かの機会をとらえお知らせしたいと思います。

項目の活動を実施。特に、

- ①趣味、レクリエーション
- ②友愛、奉仕、ボランティア
- ③健康、スポーツは九〇%以上のクラブが実施。このうち
- ①の趣味の項では、旅行が八〇%、カラオケ四五%、踊り等も三七%。
- ②の友愛、奉仕の項では、清掃活動が断突の七九%、次いで友愛訪問五五%、花の植栽など美化活動は四九%となっている。
- ③の健康活動については、ゲードボールが六六%と高く、歩け歩け運動四四%、グランドゴルフは三八%となっている。

文芸

詩

鎌取平成クラブ 三宅 芳江

四季の散歩

四季の移ろいを楽しみ、自由でのびやかな精神豊かな空間をもつことは、現時点では、中々むづかしいかも知れない。

新しい想いに耽り、貴い創造にあこがれ、小鳥のように恋をして、情の動きを詩にし、雲が雲を追うごとく、自由が自由を追いかける。咲き誇る花の哀れにも自然の悲劇を感じるのはやはりロマンチストらしい。

新しい夢と希望にあふれ生命をきおいて大地を破り萌え出する若い芽。

草深き竹藪の間から太陽がかすかに黄金の光りをほほえみながら投げるとき、その梢の葉、さながら心あるかの如く日追いつつ、追われつ、うるわしきセレナーデ、やがて風も風ぎて木々静かに音もさわやかに朝の空気をふるわせ

る。陽の出るときのプレリユード。あの楽しきは春の奏で。

雨あがりの庭のかたすみにも目にとまらぬ程さやけく咲いてたりな名もなき花。はしきこの花色小紫、手にとらんに余りに小さく口づけせんにあまりに低きも、初夏の陽にほほえむ、あわれ。

私のそばを通りすぎていった風は、ひんやりと冷たかった。秋は風なのか、光りなのか、落葉の舞散る音か、物の実るエナジーか、永遠のときの一節、東雲の光りほのかにもれそめて、地にはすがしき息吹あり。

おもしろい木よ、お前は私の古い友達だ。此の地に根をおろし、大地を穿ちて天に伸び寒さも凌ぎて陽光にささやき、夕ざれば素朴の生命を生きぬいて、真理を求めて凜然と偉大なるかな私の仲良しおもしろい木よ。

(冬の節、しいの木になぞられて人間の生きざまを形容しました。)

短歌

東院内老人会 酒井 雪子

我が家は

もの音ひそけき日々にして

老ひし二人の運動靴ならぶ

飛行機の真下に見ゆる大洋に

征きてかえらぬ

うからおもほゆ

迎春のおかざり編まんと新薔を

梳けばほのかに

秋の香ただよふ

境内にひろいし椎の実ひとにぎり

まけば三とせの

小さき群なす

園生台寿クラブ 中川 敏子

杖つきて秋芳洞に挑戦す

やさしい夫の視線脊に受け

萩焼の淡い色合魅せられて

急須求めて日々にくるほい

平和な世望みし鐘を無駄にすな

可憐な蓮花永遠に咲け

喜寿の年

都賀の台シルヴァークラブ

平野 寿男

引導はまだ渡せぬと死神が

病む枕辺にささやきて消ゆ

老いびとの座談の中に吾も居て

延命処置の是非を言ひ合ふ

二千年は吾が喜寿の年之からの

余生に大過なきを祈りつ

俳句

長沼若葉会 高田 久子

福寿草 髭の陶工 まだ無名

風しまい 明日えの空を 残し置く

凍蝶の 白紙となりて 吹かれけり

長沼若葉会 早瀬 昭代

一日づつ 埋めゆく余生 春を待つ

福達磨 抱えし少女 歩のかるく

初詣 水若やぎて 湧きいづる

都賀の台シルヴァークラブ

吉田 桂吉

笹鳴くや 爺が案内すほまち畑

姿見に 笹鳴の影 透きとおる

大膳野健勝会 篠崎 秀次

道端の 光集めし 犬ぶぐり

霜萎えの 蚕豆生きる 力秘す

もっこりと 土に手ごたへ 路の臺

大高町しあわせ会 伊勢鏡一郎

生くことに 千慮はいらぬ 去年今年

ひたすらに 言葉を忘れ 稲を刈る

日溜りに ほとけ顔して 枯蟬螂

花見川みのり会 荻原 幸子

健やかに 老いたき願い 菊薫る

小春日や 双子を乗せた 乳母車

幼名で 呼ぶ友のいて 福寿草

花見川みのり会 小林 トキ

山桜 処世術など 身につけず

万緑や 団地溺るる 朝まだき

夜桜や 男言葉の 少女達

白旗さくら会 松井 百枝

コチコチと 時計ばかりを 追いかける
今日の日は 二度と来るま 頑張ろう

白旗さくら会 樋口 麗子

目白来て 吊棚揺らす 春隣

莊園に 抹茶の香り 梅ふゝむ

独り居の 小さき雛を 飾りけり

西都賀ちとせ会 高野 智行

猫柳 名もなき河原 飾り付け

山茶花の 葉陰ひそめる 淡き紅

粉雪や 北越の肌 掻き乱す

川柳

西都賀ちとせ会 高野 智行

苦の娑婆と唱え老婆の湯三味
腹八分守り続けて胃拡張

編集後記

■高齢化の波は高く速い。高齢者の層は厚みを増している。ひと昔前なら「年寄り連」の一言で仲間意識も強かったが、最近では「年寄り連」に世代の二分化が進んでいる。七五才以上、または八十才以上の旧世代と、それ以下の新世代である。■新世代といわれる層はどちらかと言えば、自由に生きる道を選ぶという。会員加入率低下の一つの因でもある。■千年にたった一度の今、来年は新世紀を迎えようとしている今——キラキラと元氣な高齢社会をつくろうと市老連は沢山の仲間と様々な活動にとりくんでいるが、酷しい問題意識をどうクリアするのか。■冬去れば春来る。高齢者のための社会づくりではなく、国際高齢者年のスローガン「すべての世代のための活動をめざして」充実した取組みをつづけたいと思う。
(広居)

ちば市老連 第十二号

平成十二年三月十五日発行

発行 (株)千葉市老人クラブ連合会

〒260 0844 千葉市中央区千葉寺町六三八一

千葉市ハーモニープラザ三階
FAX ☎ 〇四三(二六六)二二三六
〇四三(二六六)二二三七

印刷 有限会社 宮坂印刷

〒263 0021 千葉市稲毛区轟町一八八一六
FAX ☎ 〇四三(二五二)四五三七
〇四三(二五二)四五三五

時代がかわる 日本の旅がかわる Tabi Fair 旅フェア 2000

4月19日(水)～23日(日)

午前10時～午後6時 (19日は午前11時から)、
幕張メッセ国際展示場9～11ホールで
「旅フェア2000」を開催します。

「時代がかわる、日本の旅がかわる」をテーマに
新しい日本の旅や地域の魅力が大集合します。

ドレミファど～なっつ劇場(19・20日)、有名
女優トークショー、クイズ大会、おもしろ半島ち
ば「大自慢市」、日本全国駅弁コーナーなど。

入場は無料。千葉市のコーナーもあります
ので、ぜひお立ち寄りください。

問い合わせ

旅フェア実行委員会事務局
TEL.03 (3287) 0086
千葉市観光コンベンション課
TEL.043 (245) 5282

旅フェア2000
テーマキャラクター
たぴと
旅人くん

